

自他共に大切にし、豊かに表現できる生徒の育成

いちき串木野市立市来中学校

1 研究のねらい

目指す生徒像を以下のように設定して、研究に取り組んだ。

- 主体性のある生徒 → 課題解決に向けて見通しをもち、主体的・意欲的に学習に取り組む生徒
- 協働性のある生徒 → 問いの解決に向けて、多様な読みを共有しながら、自分の考えをもつ生徒
- 創造性のある生徒 → 対話的な活動を通して、他者の意見を受容しながら自分の考えをまとめる生徒

2 研究の概要

視点1 単元を通した学習課題

生徒が、主体的・意欲的に学習に取り組むために、単元を通した学習課題はどのように設定するのが効果的か。

- ア 単元を通した学習課題の設定
- イ 「私の問い」の設定

視点2 生徒の思考を深める発問

問いの解決に向けて、思考の深まりを促す教師の発問はどのような工夫が必要か。

- ア 多様な読みを生む発問
- イ 思考の方向付けを与える発問

視点3 考えを深める話し合い活動

話し合い活動や交流活動など対話的な活動における、一人一の発言の機会を増やすために、どのような手立てが効果的か。

- ア 共有に向かうグループ学習
- イ 整理に向かうグループ学習
- ウ グループコミュニケーション力

3 研究の実際

(1) 視点1 単元を通した学習課題

ア 単元を通した学習課題の設定

単元や題材のまとまりの中で、すべての活動を通した学習課題の設定が重要と考えた。単元を通した学習課題を設定することで、学習者に学びの見通しとゴールを明確に意識化させることが可能となった。

イ 「私の問い」の設定

単元を通した学習課題の意識化が十分に図られていない状態で立てられた「私の問い」は、あらすじに関する問いに集中する傾向があった。そこで、単元を通した学習課題のフレーズ（本単元は、物語文学における情景描写の効果について考える学習）に着目させ、思考操作や価値ある言語活動を踏まえ、単元のゴールの見通しをもたせた上で「私の問い」を立てるという学習活動を行った。



(2) 視点2 生徒の思考を深める発問

ア 多様な読みを生む発問

読みを深めるための着目させたい言葉が明確であっても、教師がどのような言葉や指示で着目させるかが明確でなければ、生徒は、適切に言語感覚を働かせることはできない。生徒の「どうだろうか」「もしかしたら」と思考の広がりや深まりが始まるような揺さぶりとしての「発問」を心がけた。

イ 思考の方向付けを与える発問

生徒が「はい」もしくは「いいえ」で答えられる発問に、その理由(根拠)を合わせて問うことで、どこを読むか、どう読むかという思考の方向付けを与えることができた。また、対話を促すことで、お互いの考えを共有することができた。

(3) **視点3** 考えを深める話し合い活動

ア 共有に向かうグループ学習

個々の情報や知識及び技能を集めたり組み合わせたりして、自己の考えを広げることができるようにするためには、共有に向かうグループ学習を意図的に設定しなければならない。そのために、発言の際は、きちんと自分の言葉で話し「分かりません」ではなく、思考の途中でまとめきれていなくても必ず話すことや、先に発表した生徒と意見が同じでも、例を挙げたり言い方を変えたりして自分の言葉で意見を伝えることを意識させた。

イ 整理に向かうグループ学習

生徒が、個々の情報や知識及び技能を比べたり結び付けたりして自己の考えを深めることができるようにするためには、整理に向かうグループ学習を意図的に設定しなければならない。そのために、意見を一つに絞ることを活動のゴールとせず、自分が考えた意見を必ずグループ全員が発言し、班内で意見が複数出た時も、一つの意見に絞るのではなく、多くの意見の中で対話をしていくことを意識させた。

ウ グループコミュニケーション力

グループコミュニケーション力を高めるためには、一人一人が「私の問い」を立てていることやこれに対する自分の考えや問いのまとめを根拠とともに持っていることが前提条件にある。また、音声的なことや形式的な技能だけでなく、対話の見通しや思考操作、言語操作が高次的に必要となってくることが分かった。



4 研究のまとめ

(1) 成果

- ・ 単元を通した学習課題を設定し、生徒が自ら「私の問い」を立てる授業を展開したことにより、主体的に学ぶ生徒の姿につながった。また、課題を追究する意欲が高まったと感じる。
- ・ 生徒の思考を揺さぶる発問を工夫したことにより、思考に、広がりや深まりが見られるようになった。
- ・ グループ活動において発言を複数に広げ考えをつなげようとすることで思考が深まり、自ら考えを伝えようとする生徒が増えることを実感できた。

(2) 課題

- ・ 生徒一人一人が考え、吟味して、「私の問い」を設定したり、他者の意見や考えをふまえて自分の考えを発言したりする活動の時間の確保が必要である。
- ・ 生徒が立てた「私の問い」が、「内容(あらすじ)重視の問い」に偏ってしまうことが多い。「主題に迫る問い」や「単元を通した学習課題に関わる問い」など、学びを実感できるような問いを立てるための手立てが必要である。
- ・ 言葉を適切に表現するために、自分の考えを言語化したり、状況や場面にふさわしい方法で自分の考えを表現したりする力を身に付けさせる手立てが必要である。

5 今後の取組

今年度の研究の成果及び課題について、全教職員で共通理解を図りながら日々の実践に取り組み、本校の学習指導を更に充実させていく。